



1. 計画地について

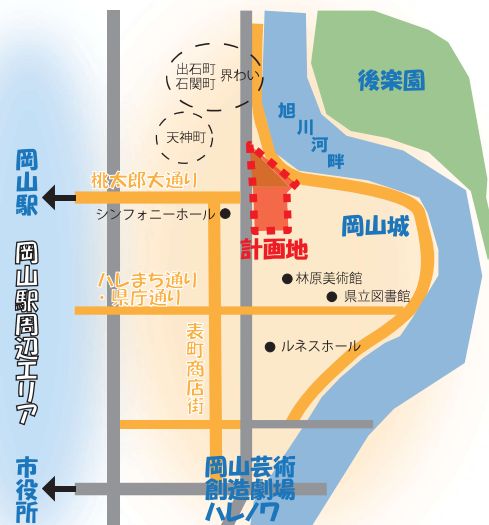
岡山城西の丸周辺広場&石山公園について

本事業の計画地は、岡山城の城郭内にあり、固有の歴史・伝統・文化と、水と緑に囲まれた豊かな自然を有する中心市街地に位置します。

岡山市のシンボルである岡山城、日本三名園の1つである岡山後楽園などの、歴史・自然が感じられます。また、城下町の時代起源を持つ表町商店街、県立美術館やオリエント美術館・天神山文化プラザ等の文化施設が集まる天神町、古い町並みや路地裏が特徴的な出石町・石関町界わいなど岡山市の文化にも触れることができます。

本事業の計画地である岡山城西の丸周辺広場と石山公園は、これらの岡山市を代表する歴史・文化資源や自然に囲まれ、市内外から様々な人が集う、岡山市の顔ともいえる重要なエリアとなっています。

さらに、岡山駅、岡山市役所、岡山芸術創造劇場ハレノワとあわせて都心全体の回遊性向上を担う重要なエリアとなっています。



岡山城



岡山後楽園



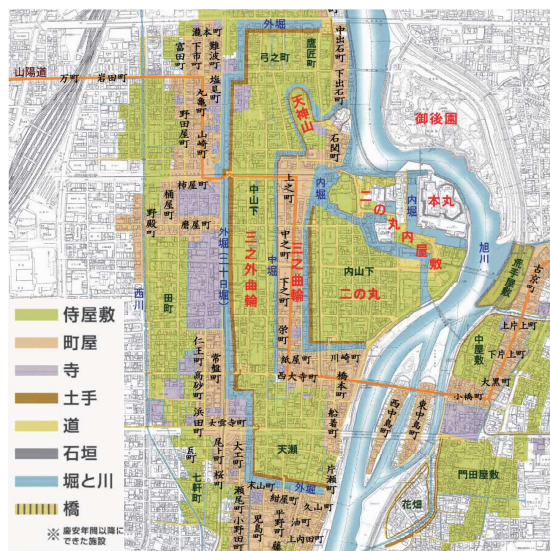
旭川さくらみち

岡山市の都市の形成過程からみた計画地周辺の歴史

岡山市の城下町は、戦国時代の築城に始まり、江戸時代に池田藩の城下町として整備が進み、山陽道（西国街道）という南北軸中心の都市構造が形成されました。その後、明治8年から岡山城の堀の埋め立てが始まり、次第に城下町としての面影が薄れる一方で、明治24年の山陽鉄道（現山陽本線）をはじめとする鉄道網の整備を契機に岡山駅を核とする都市づくりがはじまりました。

第2次世界大戦では岡山市も甚大な被害を受け、岡山市戦災復興計画に基づく新たな都市基盤が整備されました。戦前までの都市基盤を前提としつつも、将来の長期的な見通しのもと、桃太郎大通りをはじめとした東西軸が形成されました。

本事業の計画地は、岡山市の都市の形成過程における南北軸・東西軸のクロスポイントに位置します。都市全体の回遊性向上の拠点としての役割を担うエリアとしても魅力・賑わいの創出が求められます。



岡山城下町と現在の市街地重ね図
(岡山シティミュージアム制作)

戦国
江戸

城下町の
形成

16世紀後半 岡山城の築城と城下町の整備
→城下町を南北に貫通する山陽道（西国街道）という南北軸中心の都市構造

明治
大正
昭和

市街地の
展開

1891年 岡山駅の開設
→交通手段の変化に伴う都市の玄関口の転換（京橋周辺→岡山駅）
1946年～ 駅前城下線（桃太郎大通り）の拡幅整備
→戦災復興計画による主要な東西軸の形成

平成
令和

まちの
再生

2020年代 回遊性向上に向けた都心まちづくり
・県庁通りの一車線化
・路面電車の駅前広場乗入れ
・緑のボリュームアップ
・岡山城リニューアル
・岡山芸術創造劇場の整備 等